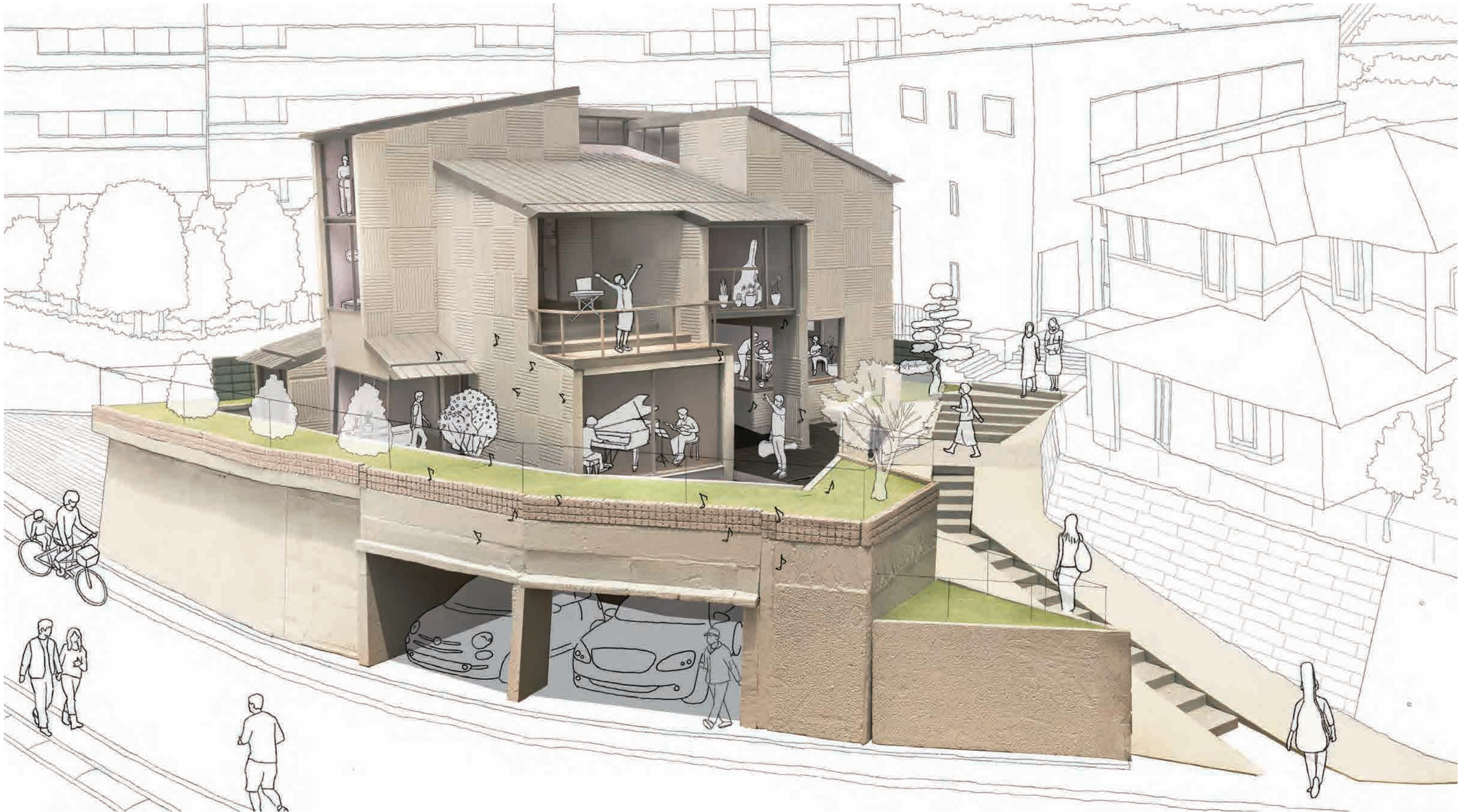




池尻音楽シェアハウス

丘陵住宅地にたつスタジオ付きシェアハウス

プロジェクト名：池尻音楽シェアハウス（甚吉ハウス）プロジェクト
 主要用途：シェアハウス、音楽スタジオ
 建設予定地：東京都世田谷区池尻4丁目-22-11
 施主名（事業主体名）：佐々木浩二（個人）
 工事予定期間：2021.8～2022.3（コロナ禍の影響で延期する見込み）
 主構造形式：鉄筋コンクリート壁式構造
 建築面積：383.8㎡
 延床面積：285.4㎡

主要仕上材料

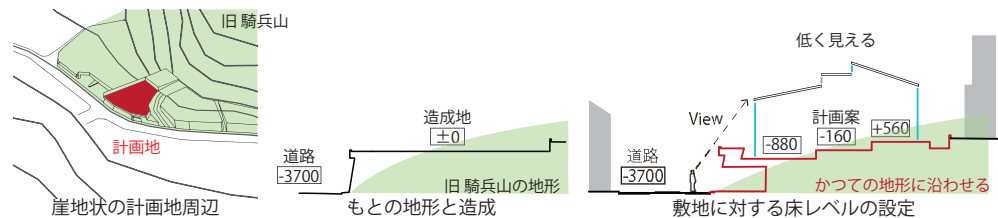
外部：屋根：ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 瓦棒葺、横樋加工
 壁：コンクリート化粧型枠仕上（モールドスター TSS-2 縦横貼）
 開口部：アルミサッシュ 横引きロール網戸付き
 外構床面：玄昌石 150×150
 庭木：梅、槇など既存保存、ハナカイドウ移植
 内部：天井：コンクリート打放し
 壁：コンクリート打放し一部断熱材吹付ボード仕上
 床：コルクタイル t=5mm ソフトセラミック仕上
 スタジオ：天井：防音室用天井材（DAIKEN オトテン）→遮音性能 T-2 等級
 壁：音響調整用壁材（DAIKEN オトカベ L80W300）→吸音性能 N.R.C=0.50
 床：防音床下地材 t=37.5（DAIKEN オトユカベスト）→推定 L 等級

1. 設計主旨

施主は子どもの頃この地に住み、元陸軍練兵場やわずかな木造平屋があるだけの旧騎兵山を遊び場として育った。場所柄なのか音楽を生業とする人が近隣におり、施主父親もマンドリン奏者で交流があった。伯母からこの土地を引き継いだ施主は、その頃の騎兵山の穏やかな住宅地の風景を引き継ぐこと、音楽を愛した父親の意思を継いで音楽を志す人の住まいをつくること、この明確なふたつの要望を持っていた。音楽マンションでもなく、通常のシェアハウスでもない。音楽について語り合い、一緒に練習する、音楽スタジオ付きのシェアハウスという骨格がまず決まった。次に、住宅地らしさを残すために全体ヴォリュームをできるだけコンパクトにし、開放感と独立性のある個室のために、各個室が四方に向き螺旋状につながる構成が提案された。RC造片流れのユニットが4体寄り添うことで各スパンが小さくなり、結果、壁厚200、スラブ厚150だけで構成されている。

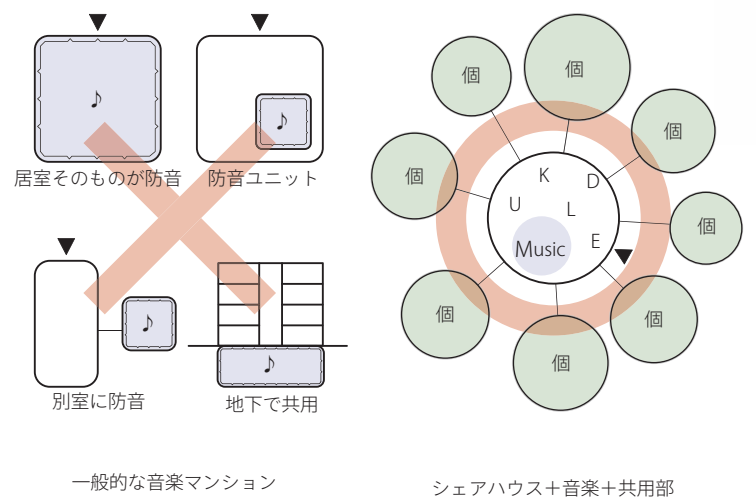
2. 計画地の環境

計画地は東京都世田谷区池尻の旧騎兵山麓の造成地であり、1ブロック南側には目黒川緑道が続いている。分譲された50年代当時はまだ擁壁がなく、周囲と同様の木造2階建であった。小さな住宅がひしめく時代を経て、現在では大規模マンションや学校など大型敷地が侵食している。今回の計画では地山に沿って床レベルを設定することで、構造上安定させるとともに建物の高さを低く抑えている。



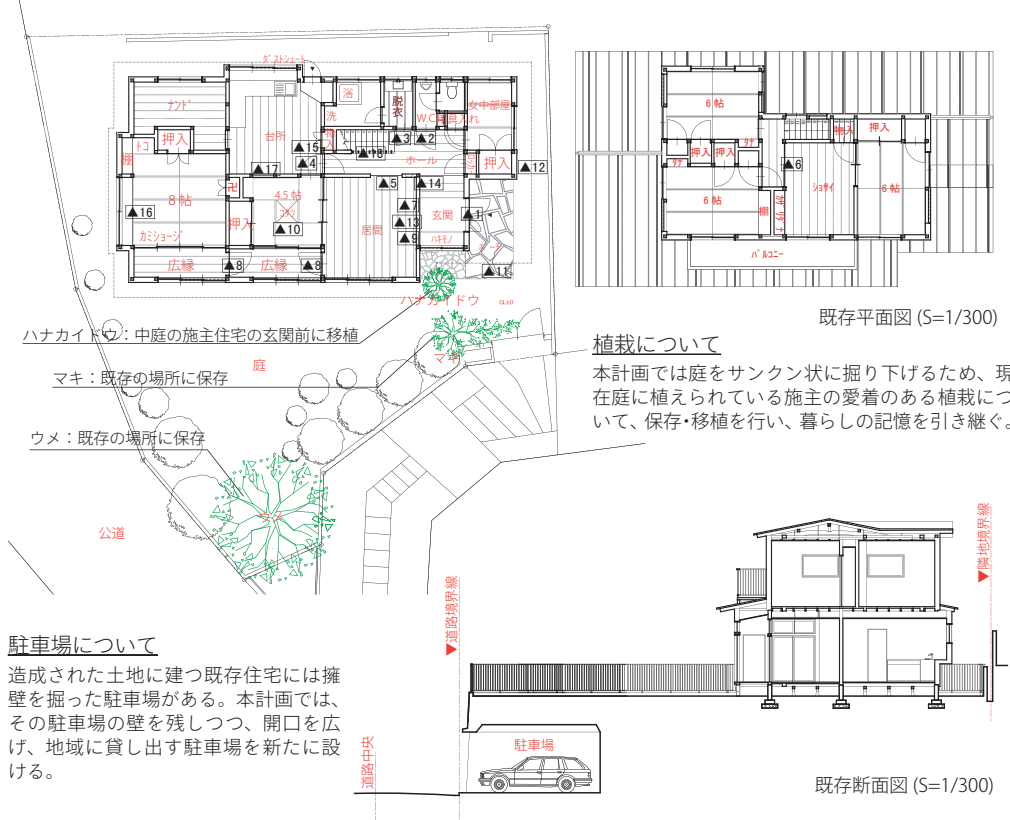
4. 音楽とシェアハウス

いわゆる音楽マンションとは、居室そのものが防音室というものが一般的で、居室の一角に防音ユニットを持つタイプ、防音室を居室以外に持つタイプといった練習スペースが個人領域に属するものか、建物地下に共用で持つ場合などで、いずれにせよ外部との接点はほとんどない。一方、シェアハウスでは個室以外のリビングやキッチンなど共用空間の性能が成否の鍵である。本計画は、玄関、リビング、ダイニングの一角に共用スタジオを設けることで『音楽』というテーマを全面に押し出し、地域の中でスタジオ付きのシェアハウスという新たな住まい方の定着を試みている。



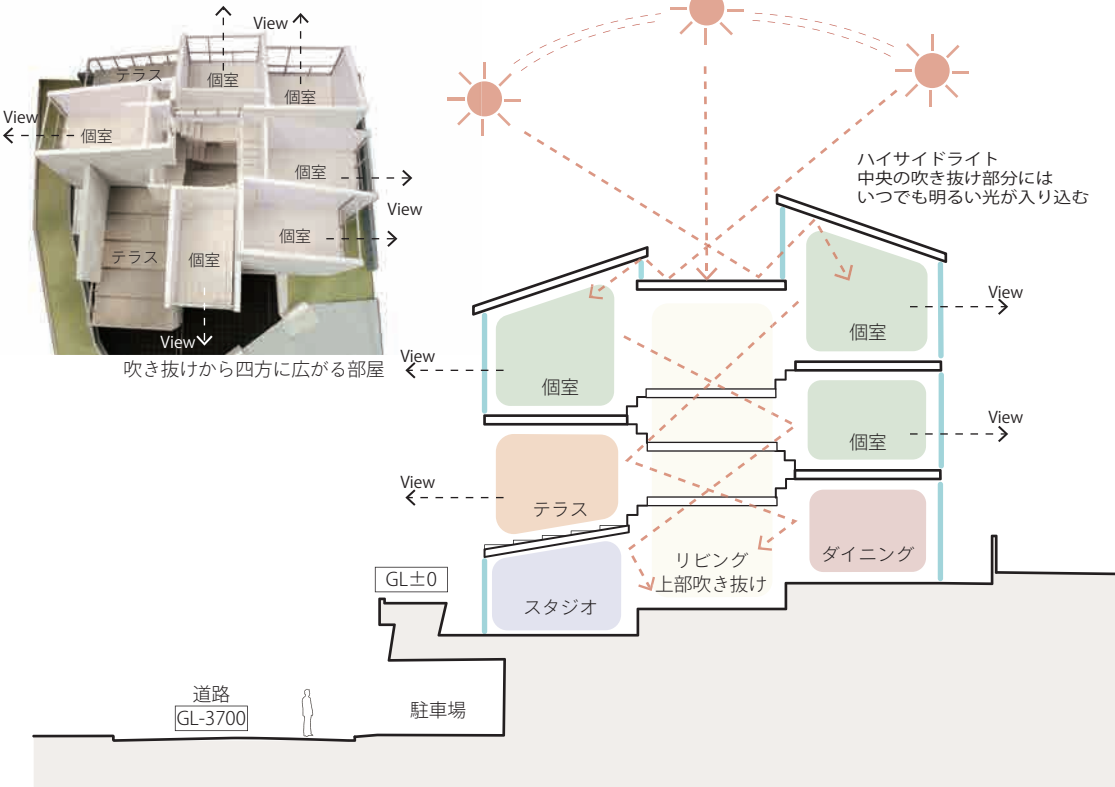
3. 既存住宅からの引継ぎ

昭和32年に建てられた木造住宅は、南側の庭に面した縁側や、大きな庇を持った玄関、女中部屋、勝手口のある台所といった典型的な都市型中流住宅であった。当家主人の銅像や、暖炉を模した暖房機など日本が豊かになった時代の特徴も残っている。こうした幸福な記憶を採取し、「家らしさ」や「楽しい暮らし」の設計につなげたい。玄関扉などは再利用し、玄関には“偽”暖炉を移設して音楽に関する展示を行う。



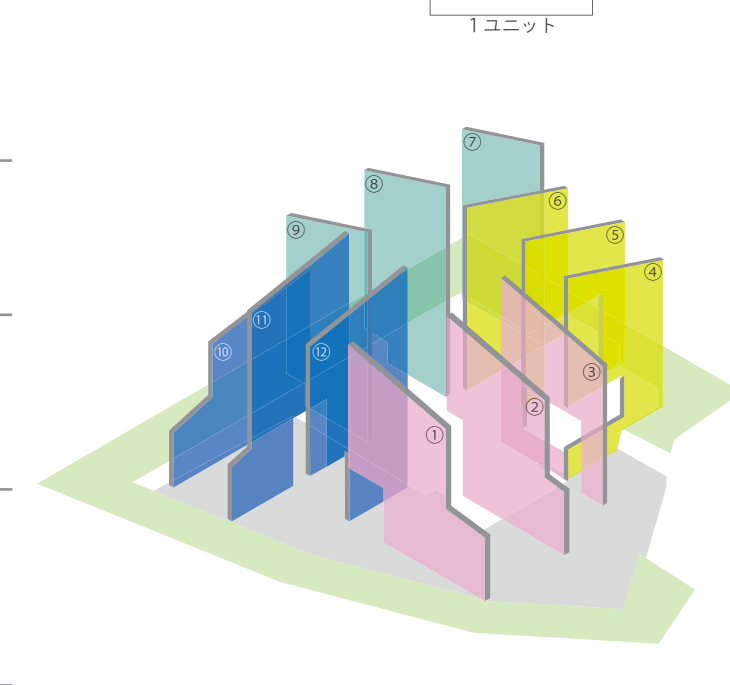
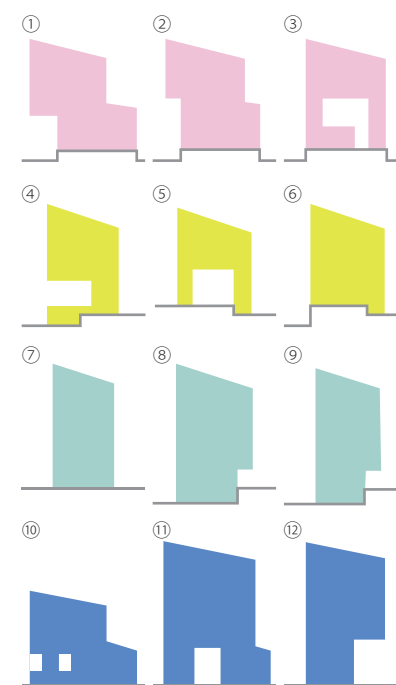
5. プランニング 螺旋状につながるフロア・四方に向いた開口・スタジオの位置

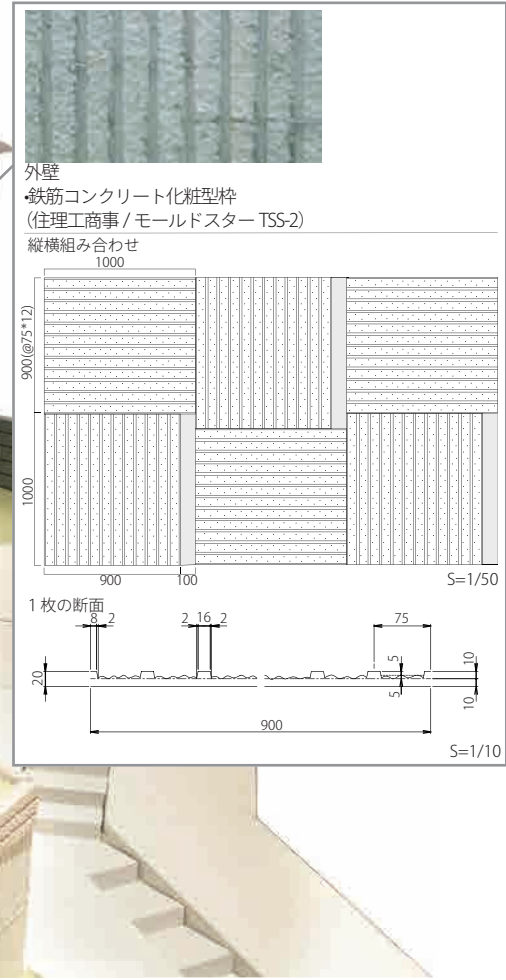
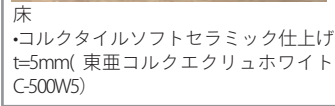
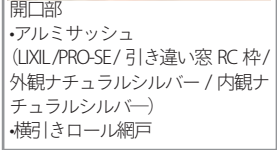
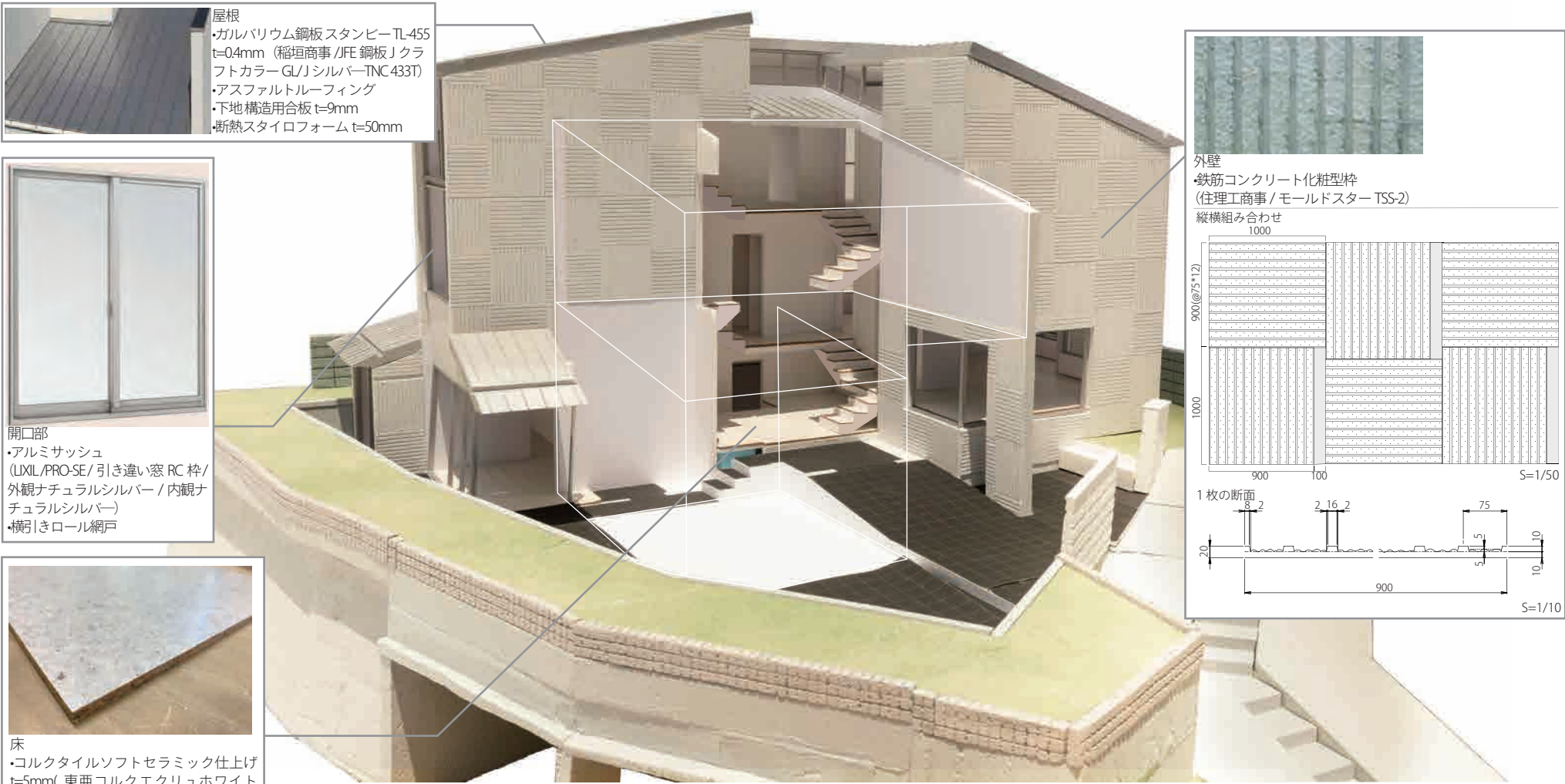
フロアは螺旋状につながり、各層は720mmずつ上昇している。オーナーハウス（ファミリーユース）からスタジオ、玄関、リビング、キッチン、水回りと共用部が連なり、テラス2カ所を挟みながら個室9室が続く。建物中心の螺旋階段および吹抜けから四方に開口部が広がるため、個室の独立性・開放性に有効である。また、計画地南端の半地下レベルに置かれたスタジオは、アプローチ道路から最も近く周辺地域からの視認性を高めるとともに、居室群からの距離を確保している。



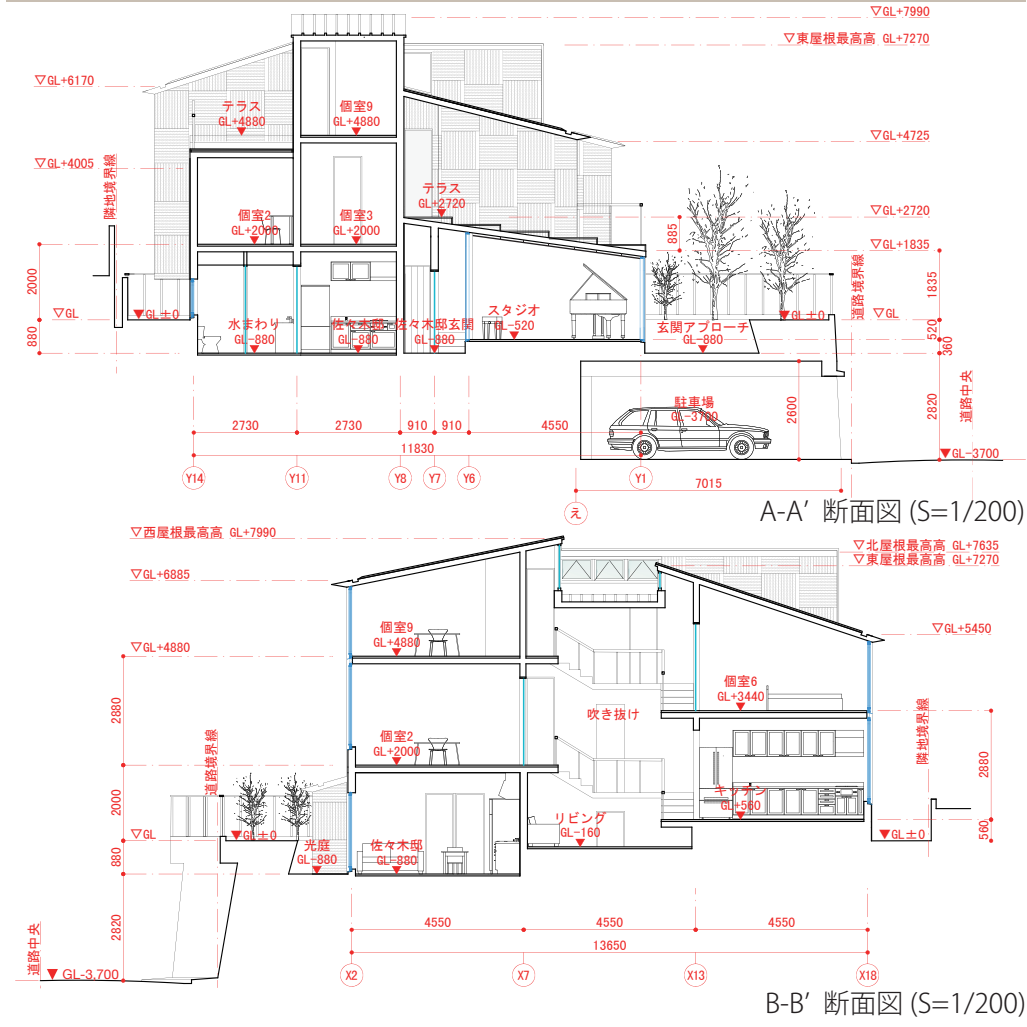
6. 構造ダイアグラム 薄い壁とスラブによるユニットの集合

本計画では、スタジオ、リビングなどの共用部を下層に、個室群を上層に置いている。全体ヴォリュームをコンパクトに、かつ、四方に開口が向く居室とするために、片流れ形状の壁とスラブによるユニットを想定し、それらが中心の螺旋階段および吹抜けによってつながっている。4ユニットはスパンが均等で小さいため、200mm厚の壁と150mm厚のスラブだけで構成されており、柱型も梁型もない。壁に設けられた開口部によって共用部はつながり、4ユニットの屋根の隙間に取られたハイサイドライトによって吹抜けから光が届く。



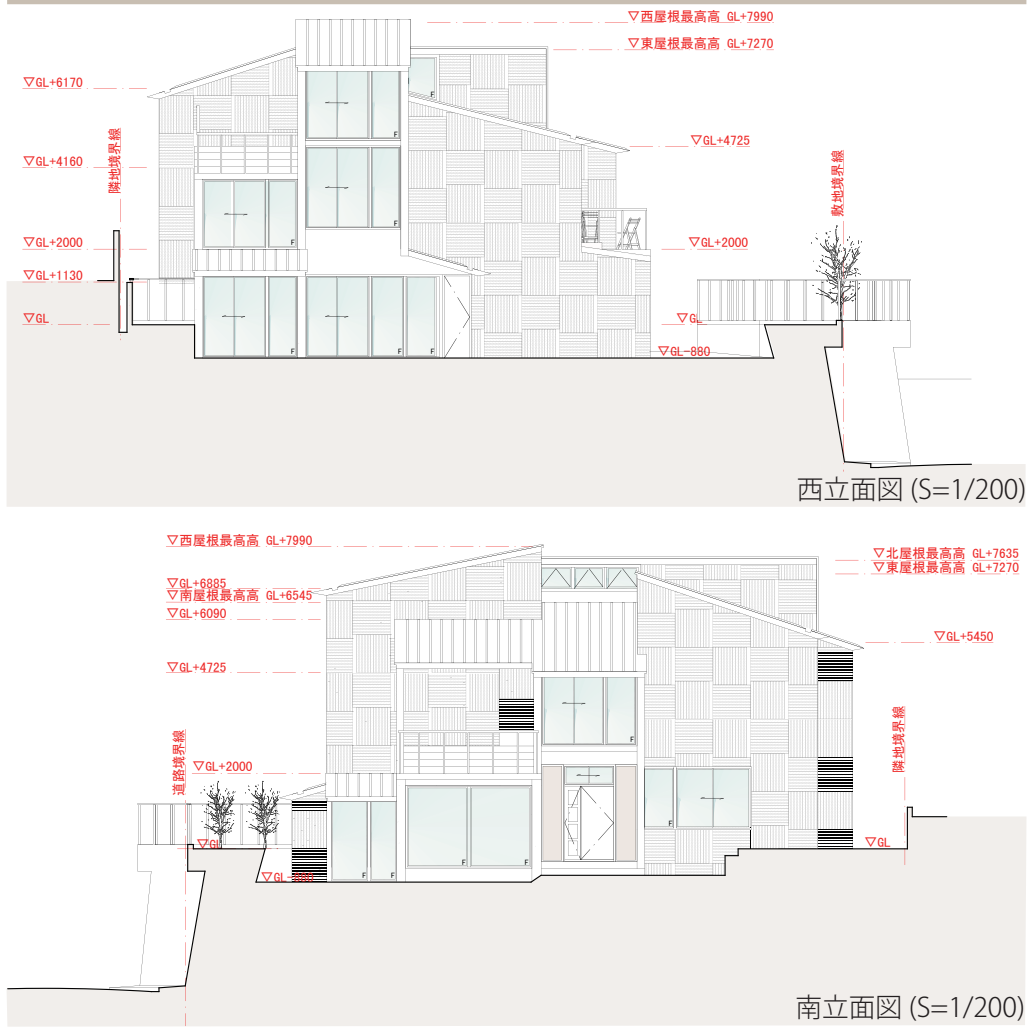


9. 断面図

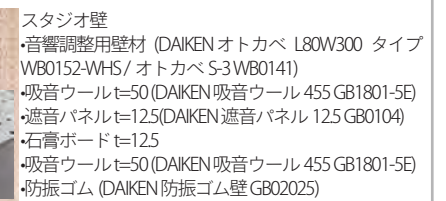
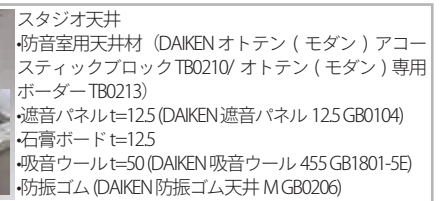
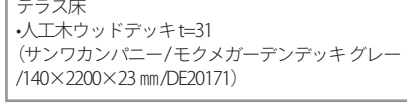
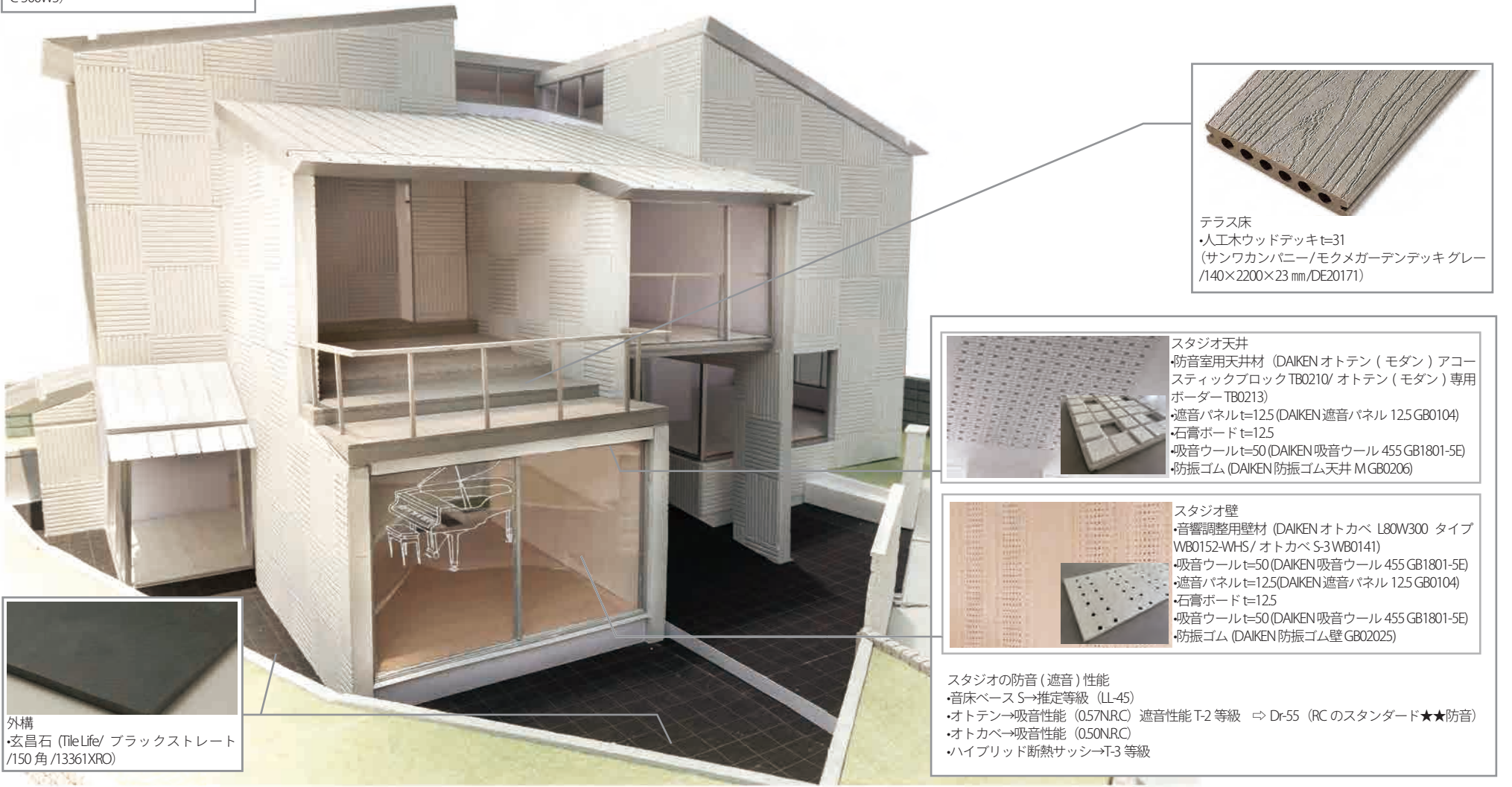


B-B' 断面图 (S=1/200)

10. 立面图



南立面图 (S=1/200)



スタジオの防音（遮音）性能
・音床ベース S→推定等級（LL-45）
・オートテン→吸音性能（0.57NRC）遮音性能 T-2 等級 ⇨ Dr-55（RC のスタンダード★★防音）
・オトカベ→吸音性能（0.50NRC）
・ハイブリッド断熱サッシ→T-3 等級

